



# 社会福祉法人の 社会貢献活動事例集

— 多様化した社会の中で、生活・福祉に関する課題の解決に  
積極的に取り組む、社会福祉法人のあり方 —

大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会



# 社会福祉法人の社会貢献活動事例集 発行にあたって



大分県社会福祉法人  
社会貢献活動推進協議会  
会長 富永 健司

私たち社会福祉法人は、「社会福祉法」に定められた公益法人として、施設における福祉サービスなどの本来業務を着実にを行うだけでなく、民間社会福祉事業の担い手として、先駆的、開拓的に地域のニーズに応じた様々な「社会貢献活動」を実践しています。

しかしながら、昨今、特に介護保険制度が始まって以降は、介護分野においては民間企業等の参入で、他のサービス供給主体との違いが不明確となってきたことなどにより、社会福祉法人がこれまで培ってきた実績に対して社会からの信頼にかげりが生じていることも事実です。

こうした中、私たち社会福祉法人は、あらためて、社会福祉法人制度創設の理念に立ち返り、今まで以上に地域の信頼と期待に応え、豊かな地域社会づくりに寄与するため、平成27

01 page

社会福祉法人の社会貢献活動事例集発行にあたって

02 page  
17 page

各施設の取り組み  
社会貢献事業 | 16事業所 |

- 安岐の郷 ..... 2
- 宇水会 ..... 3
- 永生会 ..... 4
- 大分県社会福祉事業団 ..... 5
- 九州キリスト教社会福祉事業団 ..... 6
- 暁雲福祉会 ..... 7
- 長陽会 ..... 8
- 同心会 ..... 9
- 別府発達医療センター ..... 10
- 別府光の園 ..... 11
- みずほ厚生センター ..... 12
- みのり村 ..... 13
- 明峰会 ..... 14
- ややま福祉会 ..... 15
- 陽谷福祉会 ..... 16
- 龍和会 ..... 17

(50音順)

## 目次

18 page  
19 page

法人としての新たな取り組み  
おおいた”くらしサポート”事業

年7月、県内の社会福祉法人が「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」を設置し、あらためて、各社会福祉法人が地域の社会資源として、地域に生じている様々な生活課題や福祉課題に向き合い、解決を図っているところ です。

本事例集は、県内の各社会福祉法人が今まで以上に「地域に見える」存在となり得るよう、様々な取り組みを広く県民や関係機関等にご紹介することにより、社会福祉法人のさらなる理解促進を図るため発行させていただきました。

このたびご紹介させていただく事例は、社会福祉法人がもつ強みを地域社会の中で積極的に活かした代表的な取り組みをご紹介するものであり、他の多くの社会福祉法人においても同様に展開されているところです。

この事例集をご覧いただくそれぞれの皆様が、少しでも社会福祉法人の活動にご理解を賜り、そして共に協力し合いながら豊かな地域社会の構築に携わっていただければ幸いです。

最後に、本事例集の作成にあたり訪問調査や事例提供にご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月 吉日



## 宇水園(宇佐市)の「いきいき健康ウォーキング」

「元気な人に、いつまでも元気でいてもらうことが何よりです」。宇佐市の特別養護老人ホーム宇水園は、2004年から「いきいき健康ウォーキング」を開催している。

歩いて  
食べて  
長生き

毎年11月の第1土曜日。秋の景色を眺めながら、園から風土記の丘まで片道約3.3kmの道のりを歩く。

## 地産地消の食事を楽しむ

石田敦子施設長は管理栄養士の資格を持ち、「食」にも重きを置く。目的では地産地消のおにぎりとたんこ汁などで昼食。クイズで健康に関する豆知識を楽しむなど、レクリエーションもある。

地域での活動により力を入れていくと始まった取り組み。今では毎回、100人ほどが参加する。「薬は気を付けている。歩くだけでなく、ゲームなどがあ

石田敦子施設長は管理栄養士としてから「飯を食べて、ちるのも楽しみ」と話す。高齢化が進む地域。担当で参加するケースも。「と

近頃の民生委員、辛島靖子さんは「普段車で通っている道も、歩いてゆつくり通ると違って見える。周囲

「歩くだけでなく、ゲームなどがあ

「歩くだけでなく、ゲームなどがあ



④秋の景色を眺めながら和やかにウォーキング(金到着後に味わう地産地消の食事)も楽しみの一つ

親しい人たちでテーブルを囲み、会話にも花が咲く



# 元気 100倍 円居酒屋

## 廃校の朝来小校舎で 安岐の郷(国東市)

料理も飲み物も、全て100円。毎月第2土曜日、国東市安岐町朝来地区の朝来サポートセンター鈴鳴荘で開かれる「100円居酒屋」には、地域の老若男女が集まる。廃校になった旧朝来小学校を利用し、住民たちの交流を促している。

開店とともに、住民らが一斉に入場してきた。テーブルに並ぶのは、コロッケや山菜そばなどの多彩なメニュー。サバの南蛮漬は定番という。好みの料理をトレーに載

住民らが持ち寄り販売する野菜の100円市も大盛況



せてレジで支払い、テーブルを囲む。伊東久子さんは「皆さんと出会えるのが、おもしろいものが安く食べられることが魅力です」と笑顔。持ち寄り野菜の100円市も盛況だ。

社会福祉法人「安岐の郷」が小学校閉校後の2009年、サポートセンターを開設した。高橋とし子理事長によると、事前の地区全戸調査で、1人暮らしの高齢者の「1週間誰とも話さないこともある」「二人が集まる場所に行きたい」といった声を把握。一方、若い世代は「近くに飲む

## 住民交流の場にも

所があれば行く」。双方の声を組み合わせ「居酒屋」を考案した。

同年5月に開始。2台のバスが回り、住民を送迎する。11~4月は午後5時、5~10月は同6時から2時間、飲食を楽しむ。1回の参加者は100人を超え、地区外からも訪れる。休止は一度もなく、17年8月には100回の節目を迎える。

「長く続けていくには地域の協力が欠かせない」と10年9月、「居酒屋応援隊」が発足。今では50人を超えるボランティアが活動する。赤いエ

## 回の節目、8月に

プロンを身に付け、男性は設営、女性は盛り付けや配膳に精を出す。

運営推進委員会の下川和義会長は「協力し合う気持ちがあつて、まとまっているからうまくいく」。元中学校長の植田和彦さんは「小学校が廃校になり、地域の人たちが会うことがなくなるのでは心配していた。月に一度、必ず集まることで活気が出る。少子高齢化が進む中、貴重な行事です」と話している。

### 施設データ

#### 社会福祉法人 宇水会

- 住所：〒879-0456 大分県宇佐市大字辛島299-2
- TEL：(0978)33-0111
- 理事長：石田 正信
- 運営施設：特別養護老人ホーム 宇水園、養護老人ホーム 和喜久の杜、宇水園テイクサービスセンター 高森、テイクサービスセンター メルヘン蟻木、テイクサービスセンター メルヘン別府、グループホーム メルヘン、グループホーム おもとの郷、宇水園 介護保険サービスセンター など



### 施設データ

#### 社会福祉法人 安岐の郷

- 住所：〒873-0222 大分県国東市安岐町下山口58
- TEL：(0978)67-2626
- 理事長：高橋 とし子
- 運営施設：特別養護老人ホーム 鈴鳴荘、特別養護老人ホーム むさし苑、(事業所) 養護老人ホーム 松寿園、朝来サポートセンター 鈴鳴荘





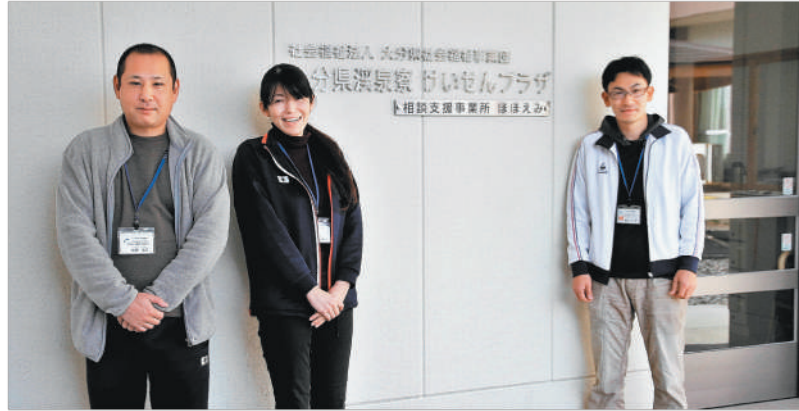
# 生活保護

# 一歩手前で支援



2015年12月に開所した「けいせんプラザ」

大分県社会福祉事業団（大分市）は2015年12月、日出町藤原に宿泊型福祉施設「けいせんプラザ」を開設した。生活困窮者、生活保護受給者、障害者ら生活に困っている人を受け入れて宿泊場所と食事を提供、個別の課題に対し、必要な支援をしている。



利用者一人一人に寄り添った支援をする津島総括（右）ら3人のスタッフ

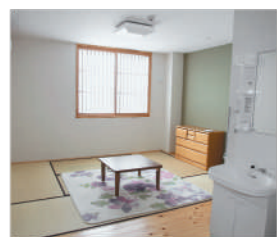
開設の目的の一つは、同年4月に施行された生活困窮者自立支援法に基づく一時利用の受け入れと自立支援。県内の生活保護受給者は約2万5000人（14年度で、5年前に比べ2700人あまり増と全国同様の増加傾向にある。プラザの津島伸一郎総括は「生活保護を一度受給すると自立生活に戻るのに苦労する人が多い。一歩手前のセーフティネットとして、生活を立て直すお手伝いをしている」と役割を説明する。

開設後1年間の利用者は延べ24人で、「無料低額宿泊所」としての利用が14人と過半数を占める。18歳から71歳が最短2時間から168日間と年代も利用期間も幅広い。テント生活を送っていた16年2月に保護された60代夫婦は、福祉事務所や自立相談支援機関の支援もあり、アパートや仕事を見つけて自立生活に復帰した。当初は支援受け入れに消極的だったが「お金もなくなり、どうなっていく

## 困窮者ら 一時宿泊と自立援助

のか不安だった。いったん緊急的に住めるところで、心身ともに休むことができ、前向きになった。この施設に出会って今がある」と振り返る。

男女別フロアに分かれた居室はそれぞれ四つの計8室。食事、就寝など決められた時間に行動して生活リズムを整え、掃除やシーツ交換などを担ってもらうことで自活への「助走」とする。3人のスタッフは自分の力で暮らすことに前向きになれるよう精神面のサポートを心掛けている。津島総括は「支援の手が届いていない人は多い。関係機関との連携をさらに深め、困窮者自立に向けた社会資源としての役割を果たしていきたい」とさらなる支援体制の強化を目指している。



居室の一つ。家族でも泊まれるようにたすも備えている

県社会福祉事業団の「けいせんプラザ」(日出町)

# 体と頭の健康 U・P 地域との連携



健康教室「ライブUP来楽舞(クラブ)」で地域とのつながりもアップ。大分市の社会福祉法人永生会は、運営する四つの総合ケアセンター(清流苑、高田清流苑、明治清流苑、舞鶴清流苑)を拠点に、体と頭の健康を支える教室を開催している。

体操後には全員で脳トレクイズに挑戦



数を数えながら健康体操に取り組む参加者

「超高齢社会の中、もっと地域貢献するため何ができるか」(明治清流苑の児玉哲郎施設長)を考えて2015年10月にスタート。介護・福祉の対象ではないが、「困り事を誰に相談したらいいかわからない」「健康維持に不安がある」人たちに對して、「外に出向き、健康づくりをサポートし、顔の見える関係づくりを目指している。

教室は健康体操と脳トレの二本立てで参加無料(初回のみ300円)。「1・2・3・4」。健康体操には、脳機能維持・向上に役立つとされている「コグニサイズ」(頭を使っての運動)を取り入れ、

## 体操と顔の見える関係築く

数を数えながら取り組む。女性参加者向けには尿失禁を防ぐトレーニングメニューも。自宅で続けられるように、タオルや椅子など身近にある物を使い、3カ月に1度の体力測定で効果を確認する。高田校区公民館での教室に参加している呑山好美さんは「体が軽くなって、階段をまっすぐ下りられるようになった」と笑顔を見せる。

体操後の脳トレでは、出された問題にあれこれ言いながら全員で答える。安東久枝さん(いずれも大分市)は「体操だけじゃなく、頭も使って笑うのがいい」と話す。

「事業を始めてから、『近所に認知症状があつて心配な人がいる』といった、それまで入ってこなかった地域住民の情報が寄せられるようになっていきます」と担当の斎藤宏さん。児玉施設長は「法人が持つ知識、経験、人材が地域を支える資源となれるように、今後も地域の福祉ニーズに合った、気軽に参加したくなるようなプログラムを提供していきたい」としている。

永生会(大分市)の「ライブUP来楽舞」

### 施設データ

#### 社会福祉法人 大分県社会福祉事業団

- 住所：〒870-0907 大分県大分市大津町2-1-41
- TEL：(097)552-1316
- 理事長：首藤 忍
- 運営施設：大分県深泉寮(救護施設)、相談支援事業所ほほえみ、福祉農園ハイテック(就労継続支援B型、就労移行支援)、共同生活援助事業所けいせん(共同生活援助)、けいせんプラザ(無料低額宿泊事業、短期入所) など



### 施設データ

#### 社会福祉法人 永生会

- 住所：〒870-0274 大分県大分市大字種貝144
- TEL：(097)529-2316
- 理事長：児玉 貞夫
- 運営施設：総合ケアセンター清流苑、総合ケアセンター明治清流苑、総合ケアセンター舞鶴清流苑、総合ケアセンター高田清流苑 (事業所)





# 補い合い、共生の“風”

大分キヤノン

「毎日、仕事楽しい。定年までずっと働きたい」。一般就労にハードルがあり、就労継続にはさらに高いハードルがある知的障がい者が、胸を張ってこう言える会社がある。2008年の創立以来、高い就業定着率を誇るキヤノンウインド（大分市）だ。

## 合併会社（大分市）に知的障がい者就労



「毎日、仕事楽しい」と話す分藤明男さん（左）

キヤノンウインドは社会福祉法人暁雲福祉会（同市）と大分キヤノン（国東市）の合併で生まれた。「人間礼拝」の理念の下、1981年の創設から一貫して「一人一人の中にある可能性を信じ、それを発揮できる場を探し続けている」（丹羽和美常務理事）という暁雲福祉会。一方の大分キヤノンは障がい者を雇用してもなかなか定着させられず、法定雇用率が未達成という課題があった」（高野眞吾人事部長）。

「障がい者の特性は分かるが生産管理は不得手」「生産管理は得意だが障がい者の特性は分からない」と互いの弱みを強みで補完し、双方の課題解決を目指すことからスタート。障がい者5人につき1人の福祉専門職がサポートし体調変化などに対応、単純作業の繰り返しだが得意な障がい者が分かりやす

暁雲福祉会

## 高い定着率、可能性広げる

い機器の改良といった役割分担を、議論を重ねる中で進めてきた。障がい者向けの特別な仕事をつくり出すのではなく、大分キヤノンの生産体制の一翼として必要な仕事を担っており、手掛ける業務は2種から47種に拡大。外部委託品の内製化にも貢献して黒字化。事業として成立する仕組みを築いている。社員満足度も高く、当初の5人から24人（2017年3月現在）に増え、障がい者雇用にも挑戦し続けている。

「給料で趣味の絵を描く材料を買えるのがうれしい」（社員の分藤明男さん）。「義務感では続かない。みんなが楽しんでやっている」（高野さん）。「互いが知り合うことで共生の輪が広がっている」（丹羽さん）。障がい者、企業、社会福祉法人、全ての可能性を広げる大きな風（ウインド）を吹かせている。



集中して作業するキヤノンウインドの社員。知的障がい者の一般就労と高い定着率を達成している

# 困り事相談 何でも



生き生き健康教室では出張介護予防講座などを行っている



地域公益課のくらしサポート相談室

「地域や年齢、性別、生活状況に関係なく、何か困っていることがあるという一点が、支援の理由になる」。「中津総合ケアセンターいずみの園を中心に、中津市の福祉を支える社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団。2015年、新たに「地域公益課」を設けるなど、地域との関わりを深めている。

九州キリスト教社会福祉事業団（中津市）

## 解決図る「地域公益課」

援機関でもある中津市社会福祉協議会と共に「福助ネットワーク」をつくり、情報共有したり、勉強会などを開催。月例会議で出た課題について、それぞれの福祉施設の特性を生かした居場所づくり、就労体験の場づくりといった取り組みで解決できないか、検討している。

八田さんは「制度の枠組みや、制度が定めるルールに当てはまらない人でも、生活に困り事があるなら放置しておくわけにはいかない。ルールに乗れない人ほど支援すべき対象ではないか」という思いがスタートだった」と説明。既存の制度の隙間を埋めている。

オールラウンドで地域と関わることは一つのテーマ。法人が運営する児童クラブでは、市内の児童養護施設の高校生を、夏休み中などにアルバイトとして雇用。高齢者を対象にした「生き生き健康教室」を月に一度開催する。次世代育成キヤノンやボランティアグループの支援など、「人づくり」にも力を入れる。

地域と共に。多角的な在り方を模索し続けている。

施設データ

ぎょううん  
社会福祉法人 暁雲福祉会

- 住所：〒870-0309 大分県大分市坂ノ市西2-4-3
- TEL：(097)524-2424
- 理事長：丹羽 一誠
- 運営施設：障がい福祉サービス事業所（事業所）  
八風園（生活介護）、八風・マアヤの園（生活介護）、ウインド（多機能型）  
八風・be（多機能型）、グループホーム「八風・マナス」、「八風・カルナホーム」  
放課後等デイサービス「風の子クラブ」、指定特定相談支援事業所「風と未来」など



施設データ

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団

- 住所：〒871-0162 大分県中津市大字永添2744
- TEL：(0979)23-1616
- 理事長：富永 健司
- 運営施設：介護老人福祉施設（特養）、ケアマンション聖愛ホーム、シニアレジデンスいずみの森、人材育成・研修センター、福祉の里センターサマリア館、児童クラブピーター、障害者生活支援センターエマオ、ワークセンターシャローム、地域公益課（くらしサポート相談室）など





## 白杵の同心会

大きな窓から穏やかな入江が見える高齢者総合福祉施設「緑の園」（白杵市）の集会室。週に1度の介護予防教室「すこやか」に、2月中旬のこの日は4人が集まった。「ここに来るのを楽しみにしてるんよ」。2時間のプログラムは和

# 生活支える介護に

人と人の信頼で成り立つ介護が、当たり前にある社会をつくろう。社会福祉法人同心会は、介護予防教室や福祉市民講座などを通して、住み慣れた地域で暮らし続けられるための活動をしている。



介護予防教室「すこやか」でストレッチをする利用者



「介護文化の構築」に向けて市民公開講座を年に1回開催している

## 「当たり前にある社会」目標

日常生活支援総合事業の通所型サービス事業所に当たる。市町村が認定する対象者として介護保険の要支援認定を受けている人が利用できる。定期的な運動によって体の動きがよくなり、人との交流で気持ちが前向きになる。利用者の家族から「通うようになって、表情が明るくなりました」という声が寄せられています。教室は地域で暮らし続けるための支えになっている。

介護が当たり前にある社会に向けて同心会が目指すのは「介護文化の構築」だ。市民への啓発活動として年に1回、市民公開「福祉講座」を開催している。他にも、住民に向けて介護や栄養について情報発信する広報紙の作成や、職員が地域に出向いて開く介護予防教室、県の認知症予防プログラム作成に職員が参画するなど、活動は多岐にわたる。

その人らしい暮らしを支えていくために介護がある。地域が高齢化を迎えた今、介護が文化として根付いた社会の土台づくりが進められている。

# 地域防災の核に 佐伯・長陽会

避難訓練では寝たきりの利用者を階段で運び「ひとりも死傷者を出さない」体制づくりを進めている



社会福祉法人長陽会（佐伯市）は「災害時にひとりの死傷者も出さない」ための防災活動に力を入れている。社会福祉法人が核となり防災を進めることで、地域に安心の輪が広がっている。

## 住民「災害への不安和らぐ」

避難棟整備 備蓄350人分 定期訓練

番匠川の豊かな流れのそり組みが全国から注目され、水没を防ぐ防水板など、水を防ぎ、災害時の避難場所として建設された。大ホールは350人が避難できる。1週間の生活用品といった備蓄はもちろ

「災害時ひとりの死傷者も出さない」という方針を立て、寝たきりの人も含めていざという時に全員が避難できるように、実践的な訓練に毎月取り組む。防災士の資格を職員35人が取得。毎年3月11日には地域住民と合同で津波避難訓練を実施するなど、防災の要としての存在感は大い。住民から「災害への不安が和らぎ、日常の安心につながっている」という声も寄せられているという。御手洗和子施設長は「命を守ることが福祉の役割。地域と共にある社会福祉法人だからこそ、



事業所内託児所の子どもたちも毎月避難訓練をしている

### 施設データ

#### 社会福祉法人 同心会

- 住所：〒875-0033 大分県白杵市大字大泊220
- TEL：(0972)63-2762
- 理事長：一原 浩
- 運営施設：〈白杵〉高齢者総合福祉施設 緑の園  
（事業所） 諏訪 緑の園  
 介護老人ホーム 白杵市安生寮  
 〈津久見〉高齢者総合福祉施設 しおさい



### 施設データ

#### 社会福祉法人 長陽会

- 住所：〒876-1511 大分県佐伯市大字長良4954
- TEL：(0972)28-3322
- 理事長：御手洗 吉生
- 運営施設：ケアハウス コスモス、特別介護老人ホーム 長良苑、  
（事業所） ティサービスセンター 愛情苑、グループホーム 陽、  
 サービス付き高齢者住宅 長良苑エンジェル、介護付き有料老人ホーム うめの里、  
 特別介護老人ホーム はたのうら、事業所内託児所 愛 など





# 地域との交流 災害時に真価

熊本・大分地震で大きな揺れに襲われた別府市。多くの地域住民が避難した社会福祉法人別府発達医療センター（別府市）では、平時から築いてきた地域との絆が災害時に生かされた。

## 別府発達医療センター



前震と本震、2回にわたった強い地震はいずれも夜だった。センターには、一般の避難所への移動をためらった高齢者や乳幼児のいる家族を中心に一般住民が多数避難。福祉避難所としての想定を超え、一時170人が身を寄せた。地元の鶴見町自治会と災害時の相互援助協定を取り交わしていたこともあり、センター側は避難者のために施設を開放。自治会の役員が協力して受け入れなどの避難所運営に携わった。想定を超える避難者を自治会と連携して受け入れることができた背景には、日頃の積み重ねがある。職員が少なく、避難が困難になる夜間の避難訓練を年1回行う際には、自治会役員や防災士が立ち会う。訓練以外でも、センターの夏祭り



開かれた施設を自指し地域との交流を積極的に進める別府発達医療センター

## 年1回自治会と夜間訓練

# 熊本・大分地震 混乱なく避難所運営

自治会の役員や婦人会が参加したり、秋祭りにも地域住民が子ども連れで来場するなど、交流が続いている。お互いを知る中で、それぞれに良い変化も生まれている。住民から「避難時、利用者のためにどういった手助けができるか教えてほしい」といった声も上がり、自然に助け合う空気が生まれた。散歩や読み聞かせといった日常のふれあいや行事介助のボランティアに携わる地域住民も増えているという。地域との交流を進めてきた阿部実常務理事は「さまざまな施設で構成される別府発達医療センターには、重い障がいのある人もいる。福祉施設は近づくににくいイメージがあるかもしれないが、なるべくオープンにして利用者一人一人が一生懸命生きていくことを感じてもらいたい」と願う。障がいがある人を中心に地域と福祉施設がつながること、地域に安全・安心が広がっている。

# 養育環境を改善

## 多職種の関係者が学ぶ「子ども福祉塾」



子どもが安心して育つ、虐待のない街に。過去の事件の教訓を胸に、子どもを取り巻く養育環境の質を高めようと、社会福祉法人別府光の園（別府市）が事務局となり「別府子ども福祉塾」を定期的に開いている。開始から5年、回数を重ねるごとに子どもの福祉に関わるメンバーが連携を深め、子どものセーフティネットが広がっている。

別府子ども福祉塾が立ち上げられたきっかけは、2011年に市内で起こった男児虐待死事件だった。「なぜ食い止めることができなかったのか」。検証に当たった同市要保護児童対策地域協議会を引き継ぐ形で12年に子ども福祉塾を開始した。子どもの福祉に関する座学を中心とした第1ステージから発展し、第28回以降は児童福祉施設などの現場を訪問する第2ステージへ進んでいる。主任児童委員や施設、行政、医療などの多職種が在籍し、学びを深めてきた。第40回は母子生活支援施設「別府厚生館」を訪れた。参加者30人は職員から説明を受けながら施設を見学、利用者の生活の様子や自立への課題を学んだ。安東一夫館長は母子が抱える問題は深く、一つの施設だけで対処できるもの

# 連携深め「虐待ない別府に」



母子支援施設の部屋を見学

ではない。子どもの成長のためにも、外の人とつながって支えていきたい」と話した。参加者からも熱心な質問が寄せられた。光の園の松永統括施設長は「子どもの福祉に関する参加者のアンテナの精度が上がってきた」と評価する。「その子の10年後を具体的にイメージしながら関わることができれば、今必要な支援が見えてくる。土台をしっかりつくった上で、その子にあった関わりを通しての支援が、本当の意味の『手当て』になる」と力を込める。保護が必要な子どもの問題は、すべての家庭が日常で抱える問題の延長線上にある。一つ一つの悩みに各機関が連携して寄り添い、専門性を高めながら地域ネットワークを築くことで、長期的な虐待の予防につなげていく。

### 施設データ

社会福祉法人 **別府光の園**

- 住所：〒874-0838 大分県別府市荘園8組
- TEL：(0977)23-2506
- 理事長：高松 右門
- 運営施設：児童養護施設 光の園、保育所 光の園子どもの広場、(事業所) 児童館 親子の広場、子ども家庭支援センター、子どもクラブ、共同生活援助事業 グループホーム



### 施設データ

社会福祉法人 **別府発達医療センター**

- 住所：〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4075-1
- TEL：(0977)22-4185
- 理事長：小松 紘一郎
- 運営施設：医療型障害児入所施設/療養介護施設 別府整肢園、療養介護施設/医療型障害児入所施設 めじろ園、児童発達支援センター ひばり園、地域支援センター ほっと、別府市相談支援事業所 ばれっと





障がい者の産品 → 買い物不便な団地



**「心の届ける移動販売」**

障がいのある人や高齢者を総合的に支える社会福祉法人みのり村（本部・杵築市）。2001年から、別府市のスパランド豊海への移動販売を続けている。毎月10日に実施しており、「十日市」として定着。丹精込めた農作物などが住民に好評だ。

**みのり村（杵築市）の「十日市」**

減農薬で有機堆肥を使っても、こだわりの品ばかり。つた朝どれの野菜と果、知的障がいのある施設利用者、焼きたてのパン、花用者たちが、心を入れての苗…。届けるのはこれ。トラックの荷台に積みこみ、担当職員が現地へ。団地内の公園に車を止め、近所の人を待てる。次々と商品を手に取り、自然と会話も生まれている。近くにスーパーもなく、車がなければ買い物に不便な地域。当時の自

利用者「やりがいがある」  
購入者「助かっている」

「大切に育てた花を持ってきて、お客さんが喜んでくれるのがうれし」と施設利用者の吉竹正明さん。諸岡幸一自治会長からは「助かるし、住民の親睦を深める場にもなっている」と話す。根底にあるのは、奉仕の理念と、障がいのある人を理解してもらいたいという思い。活動を管轄するワークセンター「誠」の尾花孝也所長は「採算は合わないが、営利目的ではやってこれなかった。楽しみにしてもらえ、それが何より。待っていてくれる人がいる限り、何か」と依頼された。法人側も、施設でつくったものの紹介の場として活

制度の 困窮家族サポート はざま

聖心園（臼杵市）の無料・低額宿泊事業



暖かな日が差し込むキッチン。近くの森からは鳥のさえずりが聞こえる。ときわ荘を訪れた人は、まずその広さに驚くという。対象は、生活に困窮している夫婦・親子で、障がい認定を受けている人がいる世帯。家族での入居を前提としていることから間取りは2DKあり、車椅子でも過ごせるバリアフリーになっている。利用には、生活困窮者自立支援法に基づき総合的に相談支援する機関の作成した支援計画が必要。開設から携わる大塚恭弘理事長は「障がいがある子どもの保護者が高齢になり生活に困窮することがあります。しかし、介護保険制度や障害者総合支援法といった仕組みの違いで福祉サービスが利用できず、制度のはさまで困っている人が多くいた。相談と援助が一緒にできる施設をつくりたかった」と話す。母体である社会福祉法人みずほ厚生センターが建設した複合施設「ピアタウン・エルファ

すべての人が地域で生きるための止まり木に。障害者支援施設「聖心園」（臼杵市）は、低所得者向けの宿泊施設「ときわ荘」を運営している。障がい者福祉や高齢者福祉といった制度の枠を越え、困っている家族が無料または低額で利用できるような整備された4部屋で、利用者は新たな一歩を踏み出している。

「自立へのステップに」

「内」に開設し、敷地内にはこどもデイサービスなども併設されている。60代の夫婦は知的障がいがあり、経済的に民間アパートの継続的居住が難しくなったことから支援につながった。生活相談員は、定期的に生活状況を把握し、他の関係機関との連携を図りながら自立に向けた支援を行う。障がい者関連に限らず生活困窮者自立支援法など関連する諸制度への理解も必要になる。ときわ荘を管理する社会福祉士・高橋智秀さん「顔写真」は「専門の研修を積み、職員に総合的な福祉の視点が育ってきた」という。安心できる居場所が、次のステップを踏み出す大きな勇みになる。共生の場を地域の社会福祉法人が支えている。



障がい者でも利用しやすいバリアフリーの浴室

施設データ

**社会福祉法人 みのり村**

■住所：〒873-0013 大分県杵築市大字日野1921-7  
 ■TEL：(0978)66-1200  
 ■理事長：大木 隆  
 ■運営施設：特別養護老人ホーム 菩提樹、テイスサービスセンター、ヘルパーステーション、福祉タクシー、配食サービス、障害児施設 第1みのり学園、障害者施設 第2みのり学園・白百合園・白萩園、児童発達センター プリンちゃん、就労事業所 みのりスマイル・ワークセンター誠 など



施設データ

**社会福祉法人 みずほ厚生センター**

■住所：〒875-0023 大分県臼杵市大字江無田1600-5  
 ■TEL：(0972)63-6692  
 ■理事長：大塚 恭弘  
 ■運営施設：障害児入所施設 みずほ学園、こどもテイスサービス ぼっぼ、障害者支援施設 聖心園、就労移行支援事業/就労継続B型支援事業 ジョブサポート あらかし、特別養護老人ホーム 四季の郷、短期入所サービスセンター 四季の郷、四季の郷 テイスサービスセンター など





# 集う場と 援助の手

## 明峰会(宇佐市)が設立のNPO法人

宇佐市の社会福祉法人明峰会は2005年、NPO法人「おたすけネットひびき」を設立。有償福祉サービスや、コミュニティサロン「四日市まちらん中サロン」の運営に当たっている。有償サービスを続ける中、15年10月にはサロン開設にこぎ着け、囲碁やヨガなどの講座を定期的に開催。多くの高齢者が集まり、誰でも利用できる交流の場としての機能も果たしている。



サロンがあるのは四日市商店街の一角。歌声喫茶の日は20人以上の参加者でにぎわう。歌詞ファイルの中から、それぞれ歌いたい曲を紙に書いてリクエスト。講師の松田美可さんの伴奏に合わせ、懐メロや唱歌など十数曲を合唱。どの顔にも自然と笑顔が浮かぶ。押し花教室は女性が中心。講師の笠口公子さんが用意した季節の草花をレジャーシートに思い思いに並べ、ラミネート加工して仕上げる。「あなたの見せて」「ふんわりいわあ」と会話

も弾む。頻りに顔を合わせるため、すっかり友達だ。歌声喫茶に参加していた安田弘子さんは「ほとんど欠かさず来ています。1人では声が出ないけど、みんなで歌うのは気持ちいい。知らなかった人とも親しくなれます」。志田絵里子明峰会理事長は「もともと地域の中に来てほしい。活動を楽しくしてコーヒーを飲んで、商店街での買い物を目的に来てくれてもいい。街の活性化にもつながれば」と思いを語る。

## 活気生み、生活を支える

### サロン、有償福祉サービス

「より公共性を持たせ、どんなグループや法人でも参加できるように、社会福祉法人の事業とは切り離しNPOにした」と志田理事長。地域と手を取り合い、課題と向き合っている。



押し花教室で作った作品を手につくり

## 障がい者ら 訪問販売

### ややま福祉会(中津)

軽ワゴン車の後部に野菜や果物、菓子などの食料品、日用品をびっしりと積み込み、地域を回る。中津市の社会福祉法人ややま福祉会は、施設を利用する障がい者と職員による訪問販売を実施している。

買い物客(左)と施設利用者の交流も生まれている



### 外出困難な人は自宅まで

## 「感謝の声喜び」

出発。車を止め、後部の扉を開くと、家から出てきた人たちが商品を手にとっていく。「イチゴがおいしそう」「ミカンが甘いかな。職員が袋に詰め、利用者がつり銭を手渡す。高齢者の手を引いてサポートし、荷物は玄関先まで持っていく。出発。車を止め、後部の扉を開くと、家から出てきた人たちが商品を手にとっていく。「イチゴがおいしそう」「ミカンが甘いかな。職員が袋に詰め、利用者がつり銭を手渡す。高齢者の手を引いてサポートし、荷物は玄関先まで持っていく。

職員が車を運転、施設利用者が助手席に乗り込んで

ここにやかに接客する施設利用者ら

ケアマネジャーやヘルパーからの情報もあり、家は市街地から離れた高尾地区、2日は

高い金谷地区を回る。金枝豊治理事長は「施設のことを認知してもらえようになった。利用者も対面で『ありがとう』と声を掛けられることはあまりなかった。感謝されることはやりがいにもつながっている」と説明する。15年には、施設そばに食料品などを販売する拠点「ややま市場」をオープン。住民の憩いの場にもなっている。「毎日来てくれる人もいて、差し入れまである。これからもっと高齢化は進むと思う。より地域の役に立っていかねば」。谷口美樹チーフマネジャーは力を込めた。



近隣住民向け食料品などを販売する「ややま市場」も開設

#### 施設データ

### 社会福祉法人 ややま福祉会

- 住所：〒871-0153 大分県中津市大字大貞312-1
- TEL：(0979)24-1637
- 理事長：金枝 豊治
- 運営施設：ややま園、ややま園如水、ややま福祉ホーム、グループホームややま、(事業所) ケアホームややま、ライフサポートセンターひまわり



#### 施設データ

### 社会福祉法人 明峰会

- 住所：〒879-0471 大分県宇佐市大字四日市4442-1
- TEL：(0978)33-4730
- 理事長：志田 絵里子
- 運営施設：ケアハウス光、ウェルネスひかり、ファミリアひかり、(事業所) ひかりデイサービス、グループホームオハナ、ひかり介護サービス、福祉農場 安心家族、グループホームひびき山





自宅に迎え → 施設内マーケット → 送り届け

「あんた元気じゃったな?」「風呂に(入る時)気を付けてよ」。高齢者同士、販売業者と高齢者、あちこちで話の花が咲く。社会福祉法人龍和会が運営する特別養護老人ホーム寿志の里(大分市中判田)で開かれる「ふれあいマーケット」での一場面だ。

マーケットは、買い物物が困難な人を対象として2015年4月に始めた。大きな特徴は職員が対象者の家に迎えに行き、買い物後に送り届けること。当初は県社会福祉協議会のモデル事業として、校区自治委員や民生委員の協力を得ながら実施。半年間の予定だったが、「移動販売車が来ても足が悪くて間に合わないし、重くて運べない。玄関の中まで荷物を持ってきてもらえないですごく助かる」と存続を望む多くの声で継続。毎月第2、4水曜日開催している。買い物支援だけでなく交流の場づくりも目的。80代の女性は「知り合いに会えて、お店の人と話せる。来るのが楽しみ」と笑顔を見せる。ホーム入所者も買い物し、「家族以外とほとんど交流がない入所者が地域

## 関係者との連携、深く



さまざまな商品が並んだマーケットで買い物と会話を楽しむ地元の高齢者ら

助になればと買い物をする。事業の成果について法人の担当者、島田義和さんはこう説明する。運営方法の話し合いを重ねる中で、校区内の福祉関係者と本当の顔が見える関係が築けた。地域で困っている人や困り事の情報も寄せられるようになっていきます。買い物支援が地域の福祉拠点づくりにもつながっている。



スタッフが家まで送り迎えする

# 地域つなぐ 買い物支援

## 寿志の里(大分市)

の人に会うと、その日一日の色が良くなります」(衛藤規久子施設長)。  
8事業者が出店(17年1月現在)。手作りまんじゅう、野菜、果物、菓子、飲料、パンや生花などがあふれる会場は夜店のような華やいだ雰囲気。お茶のサービスもあり会話が弾む。  
出店している女性グループ五月会のメンバーは「私たちもいずれお世話になるから、お年寄りが元気になるように明るく接している」と話し、校区社会福祉協議会や地域包括ケアセンター職員らは、継続開催の一

# 365日「健康、配達

## 陽谷福祉会(日出町)の配食サービス

地域でその人らしく暮らすために、福祉ができることを。社会福祉法人陽谷福祉会(日出町)は、住民のニーズを細かく拾い、実践に移している。



健康いきいき弁当を受け取る斉藤さん(左)。届くのを楽しみにしている

丘陵地に立つ一軒家から、日差しに輝く別府湾が見える。この家で一人暮らしをする斉藤和子さんは、陽谷福祉会の配食サービス「健康いきいき弁当」を利用している。弁当の包みを受け取りながら「おいしくいただけ、本当に助かります」とほほ笑んだ。職員との会話も楽しみの一つ

## 昼夕2回、治療食にも対応



見た目の美しさにも気を配り、陶器の器に盛られた弁当

だ。  
配食サービスを始めたのは2007年。高齢者が食事に困っているという声を自己責任という意識から、受け、「単に弁当を届けるのではなく、在宅高齢者の安全安心や自立をサポートするサービスが必要だ」と考えた柿本貴之常務理事が事業化に踏み切った。365日欠かさず昼夕2回。糖尿尿病や腎臓疾患などの治療食にも対応しており、在宅の高齢者や健康管理が必要

## 困窮者支援事業も

な人の健康を支えている。「社会福祉法人として、不採算であってもそこにニーズがあれば実践する。事例が先行するからこそ実現に即した制度の運用が可能になる」と柿本常務理事は話す。日出町を中心とした地域密着型の事業を多面的に展開することで、法人としての採算性を担保しているという。  
13年には生活困窮者支援のため、シエルター機能を備えた無料低額宿泊所「サポートハウス日出」を陽谷苑内に設置した。車上生活だった30代男性は、職員と

### 施設データ

#### 社会福祉法人 陽谷福祉会

- 住所：〒879-1502 大分県速見郡日出町大字藤原5708-3
- TEL：(0977)72-8336
- 理事長：柿本 三男
- 運営施設：特別養護老人ホーム 陽谷苑、陽谷苑 ショートステイサービス、  
(事業所) テイサービスセンター めくもりの里、テイサービス陽谷苑、  
フィットネス 陽谷苑、ケアプランセンター 陽谷苑、  
訪問看護ステーション 陽谷苑 など



### 施設データ

#### 社会福祉法人 龍和会

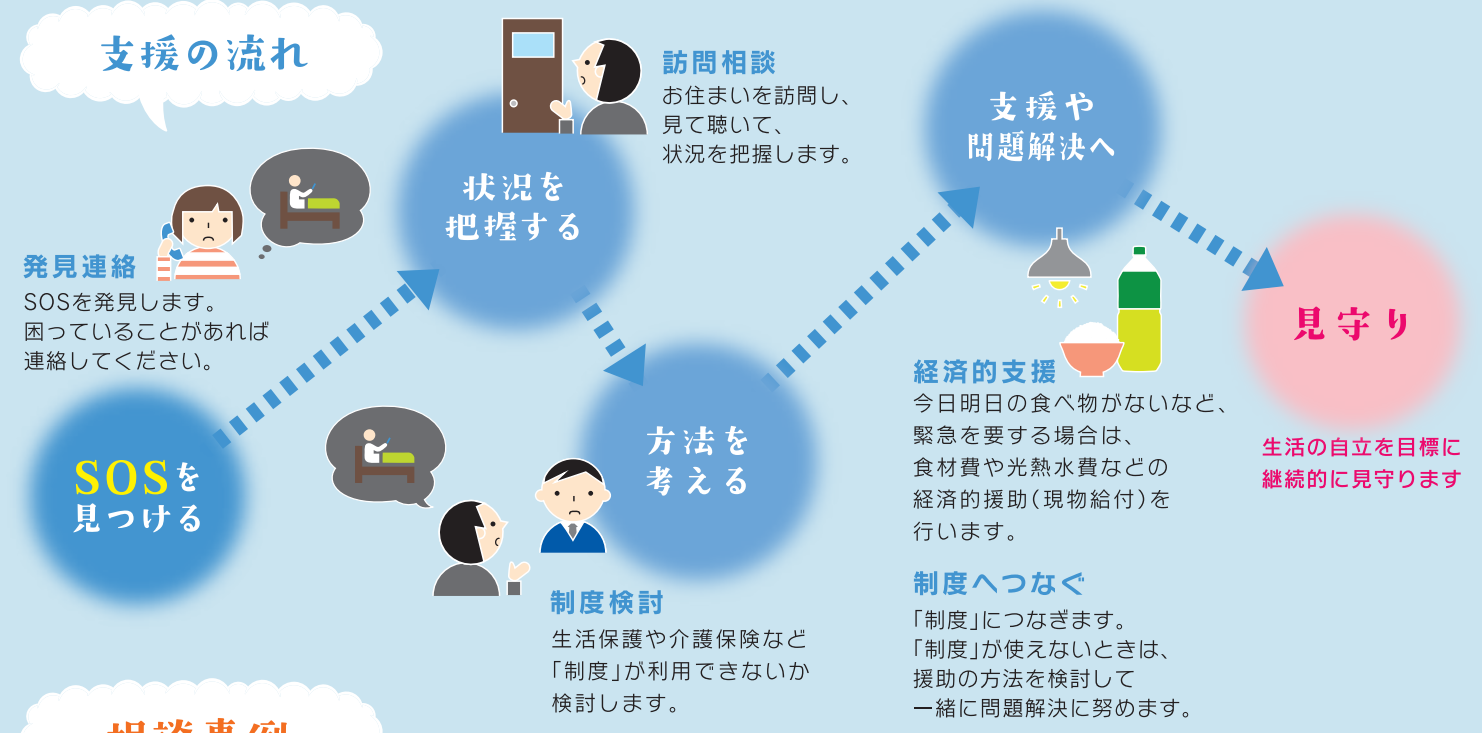
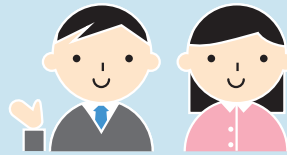
- 住所：〒870-1113 大分県大分市大字中判田1342-3
- TEL：(097)548-8201
- 理事長：衛藤 和郎
- 運営施設：特別養護老人ホーム 寿志の里  
(事業所) [介護老人福祉施設][地域密着型介護老人福祉施設]  
[短期入所][寿志の里 テイサービスセンター]  
[寿志の里介護保険サービスセンター]





みなさんの暮らしにまつわる相談を受けつけます。  
失業、虐待、けがや病気が原因で生活に困っている人はいませんか？

この事業は、大分県内の社会福祉法人(施設)で構成する「大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会」が実施します。各施設が互いに連携、協働し、既存の制度では対応しきれない狭間の問題や、生活困窮などの課題を社会福祉法人としての「強み」を活かして迅速に解決することを目的としています。



相談事例

**60代女性**  
高年齢・経済的困窮・就労支援  
昨年の6月に離婚をし、貯金を使って生活をしてきたが手持ち金も無くなり、住むところと今日明日の食べるものも困るようになった。知人宅で間借りをして生活しているが、長くは迷惑をかけられないため、当面の住むところと現物での食事提供を希望。生活費については、元夫よりもらう予定であったが、振込はなされていない。生活のための就職活動のサポートが必要と判断し、経済的支援と就労支援を行った。

**70代男性**  
高年齢・独居・ごみ屋敷・慢性的経済困窮  
年金支援までのお金がなく、食べるものもなく困っているため支援して欲しいと相談あり。腎機能障がい週3回の透析を30年続けている。食料支援等実施したが改善がみられない。また、自宅はごみ屋敷となっているが、片付けをすることにも同意しない。地域包括、社協とも協働しながら、見守りを継続していく。家族(娘)との連絡調整も課題である。

**30代女性**  
母子・経済的困窮  
市生活自立センターで相談支援を続けてきたが、2才の次男の保育園を確保できず就労ができていない。母子手当、児童手当でやり繰りしてきたが、住宅の退去命令や食べるものも無い状況に陥った。暮らしサポートでの支援を協議し、自立に向かって相談支援を継続することを条件に、電気代、食料品について支援を行った。

**30代男性**  
精神疾患・引きこもり・家族問題・就労困難  
電気料金の支払いができないという相談で、生活困窮者自立支援事業所より連絡あり。相談者は、心臓病を患い自宅療養中であり、父の給料で家族3人が生活している。小遣いと生活のやり繰り費用を父より預かっているが、電気料を使い込み料金が不足して払えない。コミュニティソーシャルワーカーの訪問により、母の精神疾患、本人の身体的な心配、就労、父の定年後の生活等、課題が多く長期的支援が必要。







## 大分県社会福祉協議会

〒870-0907 大分県大分市大津町2丁目1番41号 大分県総合社会福祉会館内

TEL.097-558-0300 FAX.097-558-1635

<http://www.oita-syakyo.jp/>

発行日 2017年3月31日